

大和川を付け替え、 住吉は川のまちになった

大和川は住吉区の南を流れる大きな川です。この川は今から3百年ほど前に人工的に流れを変えられて今のところを流れるようになりました。

昔の大和川は、奈良県から流れてきて大阪府に入ったところで、いくつも枝分かれして北に向かって流れ、大坂城の北側で淀川に合流していました。この川は古墳時代ごろ（約1千5百年前）からたびたび洪水をおこし、家や田畑を押し流して川の近くに住む人々に大きな被害を与えていました。洪水を防ぐための工事が何度も行われたのですが、なかなか洪水の被害をくい止めることができませんでした。江戸時代になって、今米村（東大阪市）の庄屋であった中甚兵衛らが幕府に働きかけたことで、川の流れを西のほうに変えて、堺の北側で大阪湾に流れるようにする大規模な付け替え工事を行うことになりました。

工事は宝永元年（1704）に始まり、約8カ月かけて全長14kmの新しい大和川が完成しました。住吉区の杉本や山之内あたりの工事は浅香山のかたい地盤を掘らなければならず、特にたいへんな工事だったといわれています。

新しい川ができたので、古い大和川のまわりでは洪水の心配はなくなりましたが、住吉区では農業用に水を貯めていた依網池が新しい川で分断されて小さくなり、池の底が川の底より浅くなったため農業には使えなくなっていました。

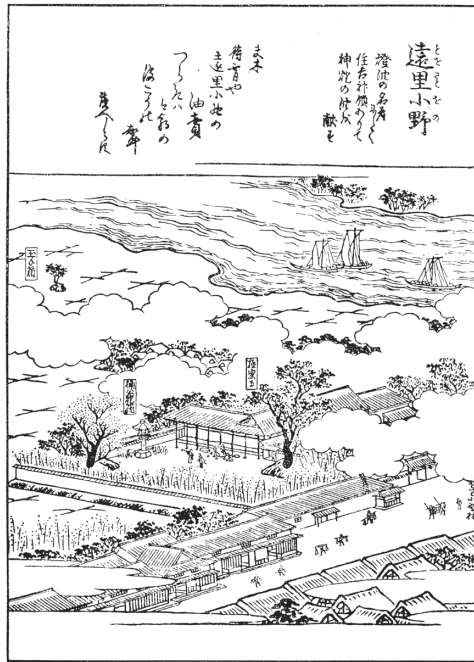
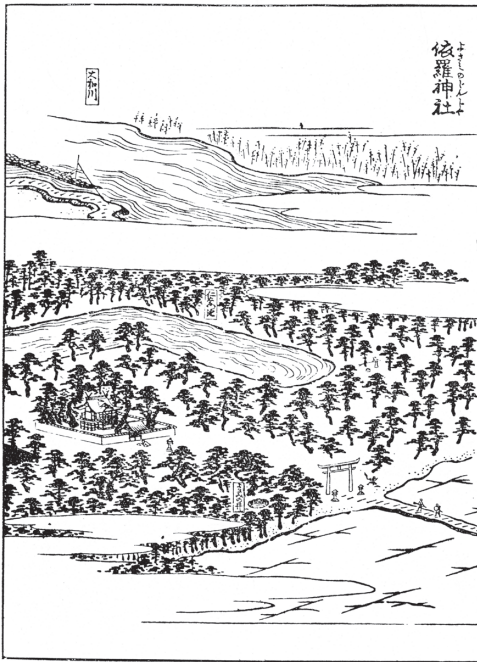


新大和川・十三間川の配置図



住吉区ゆかりのキャラクター10
大和川の工事人

その一方で、新しい川には剣先船と呼ばれる荷物を運ぶ船が航行するようになり、南北の十三間川を使って大阪と奈良を結ぶ新たな水運が開かれました。



とてつもない 大プロジェクトだった

大和川の付け替え工事は、土地が低いところでは堤防を築き、高いところでは深く掘り削る工事が行われました。平野区の長吉川辺付近の堤防が工事で削られた際に、宝永元年の付け替え工事の盛土が高さ3mにわたってあらわれ、当時のたいへんな工事の様子をうかがうことができました。

一方、山之内から遠里小野にかけて北西に流れが変わる部分の川岸には堤防はありません。河原までの深さは数mもありますが、ここはもともとあった浅香谷（浦）と呼ばれた谷にあたり、古代から船が入ってくる入江だったところです。

せつつめいしよす え やまとがわ ひたり よさみじんじや よさみけ みき おり お の ごくらくじ ふきん ふうけい
 摂津名所図会の大和川。左は依羅神社と依網池、右は遠里小野の極楽寺付近の風景



すみよし く なんたん なが やまとがわ
 住吉区の南端を流れる大和川

